

【経済政策】 谷口 洋志 ゼミ



シンガポール国立大学(NUS)での国際交流(2018年3月)



西南政法大学(中国重慶市)での国際交流(2018年9月)

演習テーマ：世界経済の将来

<活動内容・ゼミ紹介>

人口減少下にある日本経済が長期におよぶ低成長を続けるとともに、世界における日本の存在感が薄れてきています。その一方で中国が台頭し、次いでインドが台頭してきています。人口が2億6000万のインドネシア、1億前後のフィリピンやベトナムなど、今後の飛躍が期待される国もあります。世界の動きを目の当たりにしますと、日本は「鎖国」や「閉鎖主義」が良いのでしょうか。人々の間での多様性を承認すると言いながらも、相変わらず同じ服装や格好だけでなく、態度や考え方まで「画一化」を強いる、あるいはそれに適合しようとして、他人との差別化を極力避けようとする姿勢が良いのでしょうか。私が在外研究期間に中国とアメリカで生活をする中で得た結論は、「鎖国」「閉鎖主義」「画一化」は誤った思考・思想・戦略・方法論であり、それを貫けば日本の存在感をさらに薄めるだけでなく、そもそも個人の生き方として全然楽しくない、ということでした。

こうした考えに基づいて、ゼミでは「世界経済の将来」という大きなテーマのもと、世界がどう動いているのかを知り、10年後、20年後を皆さんがどう生きるかを考えていただきたいと思います。これを実践する上で効果的な手段の一つは海外研修です。最近の海外研修では20名近くが参加し、台湾、中国(大陸)やシンガポールに出かけて、現地の大学生と交流したり、自分の課題をもって現地調査をしたりしています。帰国後の皆さんの成長ぶりにはいつも驚かされます。こうした経験から、メディアや他人のフィルターを通して伝えられる映像や文字情報でなく、自分が見聞した映像や文字情報で自ら考え、判断する、そのような人に育っていただきたいと思います。願って毎年皆さんと接しています。

ゼミ運営のポリシーは、多様性(diversity)と包括性(inclusion)を認めあい、自由(liberty)と正義(justice)を尊重し、常識(common sense)と礼儀(politeness)を無視しないことです。また、英語や中国語に堪能な人を求めているわけではなく、英語や中国語(その他外国語)でコミュニケーションすることを厭わない人(逃げない人)を求めています。

2年次のゼミでは、東アジア(特に中国、韓国、日本)、南アジア(インド、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、ブータン)、アセアン(シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシア、フィリピンなど)、アメリカ、EUのうちの3~4つの地域に分かれて班別の地域研究をしたいと考えています。3年次は、その延長線上あるいは勉強の過程で芽生えた個別テーマについて班別に取り組みます。4年次は、演習論文執筆が目的です。